

中小企業景況調査報告書

令和4年7月～令和4年9月期実績 / 令和4年10月～12月期見通し

令和4年10月

宮崎県商工会連合会

中小企業景況調査要領

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、全国商工会連合会が中心となり、昭和54年度から四半期ごとに全国一斉に実施しているものです。本県分の調査結果は次のとおりです。

1. 調査対象期間

令和4年7月～令和4年9月期を対象とし、調査は令和4年8月22日から8月31日の間に実施しました。なお、令和4年10月～12月期は予測値となります。

2. 調査方法

商工会の経営指導員による訪問面接調査により実施。

3. 対象地区

宮崎市生目、中郷、北郷町、三股町、えびの市、綾町、都農町、川南町、諸塚村、日之影町の10商工会地区。

4. 回答企業数

150企業のうち、133企業の回答を得た(有効回答率88.7%)。

業 種	調査対象企業数(%:構成比)		有効回答企業数(%:構成比)		有効回答率(%)
製 造 業	33	22.0%	29	21.8%	87.9%
建 設 業	23	15.3%	21	15.8%	91.3%
小 売 業	39	26.0%	33	24.8%	84.6%
サービ業	55	36.7%	50	37.6%	90.9%
合 計	150	100.0%	133	100.0%	88.7%

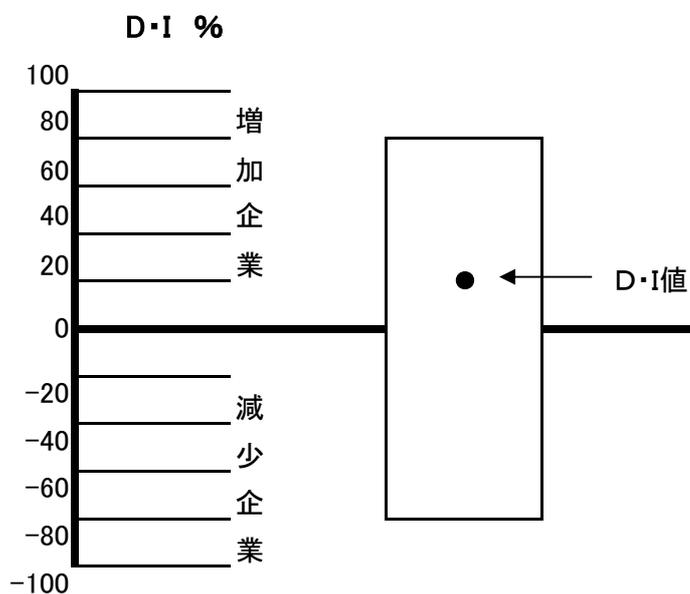
5. その他

(1) D・I

この報告書の中で、「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。これは企業経営者の景気動向を表わす指標として利用されています。算出方法は、今期と前期、今期と前年同期、あるいは今期と来期「見通し」との比較を行い、増加(上昇・好転)企業の割合から減少(低下・悪化)企業等の割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気(楽観)、マイナスなら弱気(悲観) 原材料又は商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

例えば、売上高で(増加)企業40%、(不変)企業40%、(減少)企業20%の場合、D・Iは40(増加)－20(減少)＝20となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表わしています。

グラフで示すと下のようになります。



(2) 天気図

D・I値をお天気マークで表示

DI値	特に好調 $30 \leq DI$	好 調 $15 \leq DI < 30$	まあまあ $0 \leq DI < 15$	やや不振 $\Delta 15 \leq DI < 0$	不 振 $\Delta 30 \leq DI < \Delta 15$	きわめて不振 $DI \leq \Delta 30$
表示						
	晴	晴時々曇	うす曇	曇	曇時々雨	雨

I 全産業全体の状況

主要景気動向指数(D・I)

項目	令和3年	令和3年	令和4年	令和4年	令和4年	令和4年
	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
	前年同期	前々々期	前々期	前期	今期	来期見通し
売上高	▲ 31.1	▲ 10.0	▲ 29.0	▲ 4.7	▲ 15.9	▲ 12.1
採算	▲ 32.4	▲ 18.9	▲ 34.0	▲ 24.6	▲ 27.7	▲ 20.2
資金繰り	▲ 26.1	▲ 11.6	▲ 21.8	▲ 13.5	▲ 14.2	▲ 8.8
業況	▲ 29.3	▲ 10.9	▲ 29.5	▲ 19.0	▲ 17.5	▲ 10.6

いずれも前年同期と比較したもの。

<主要景況項目の概況>

◎売上高

今期(令和4年7月～令和4年9月)の売上高のD・Iは、▲15.9ポイントとなって、直前四半期の▲4.7ポイントより悪化した。全ての業種で悪化した。来期については、▲12.1ポイントと当期より改善を見込んでいる。

◎採算

採算のD・Iは、▲27.7ポイントとなっており、直前四半期の▲24.6ポイントより悪化している。製造業、建設業で悪化した。小売業、サービス業では改善した。来期については、▲20.2ポイントと当期より改善を見込んでいる。

◎資金繰り

資金繰りのD・Iは、▲14.2ポイントで、直前四半期から悪化した。製造業、小売業は改善したが、建設業、サービス業では悪化した。来期については、全体で▲8.8ポイントであり、当期より改善を見込んでいる。

◎業況

業況のD・Iは、▲17.5ポイントで、前期より改善した。来期は▲10.6ポイントと改善を見込んでいる。

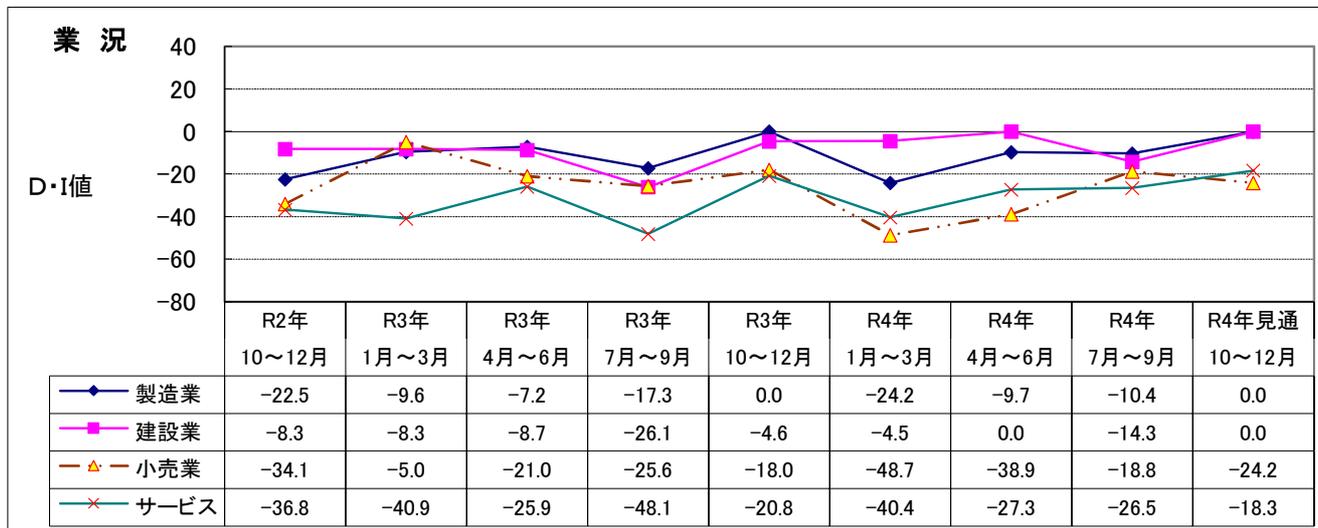
内閣府の令和4年9月発表の月例経済報告では、「景気は、緩やかに持ち直しており、ウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。」としており、景気は回復過程にあるとしている。

日本銀行宮崎事務所の10月3日付の宮崎県金融経済概況では、「宮崎県の景気は、緩やかに持ち直している。個人消費は、緩やかに持ち直し、観光は、持ち直している。住宅投資は、緩やかに持ち直している。公共投資は、高水準で推移している。生産は、弱めの動きとなっている。景況感は、非製造業を中心に緩やかに持ち直している。設備投資は、高水準で推移している。こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は、全体として緩やかに改善している。」としており、基調判断は、持ち直しの動きにあるとしている。本調査でも、県内中小・小規模事業者の景況感については、緩やかに改善傾向にあるところである。

製造業	売上と採算は悪化、資金繰りは改善という結果となった。次期の見通しは、売上、採算、資金繰りの全てで改善を見込んでいる。
建設業	完成工事額、採算、資金繰りの全てで悪化という結果になった。次期の見通しは、完成工事額、採算、資金繰りの全てで改善を見込んでいる。
小売業	売上は悪化、採算と資金繰りは改善という結果となった。次期の見通しは、売上は悪化、採算と資金繰りはほぼ横ばいと見込んでいる。
サービス業	売上と資金繰りは悪化、採算は改善という結果となった。次期の見通しは、売上と資金繰りは改善、採算は悪化を見込んでいる。

＜経営上の問題点について＞

製造業は「原材料価格の上昇」、建設業は「材料価格の上昇」、小売業は「仕入れ単価の上昇」、サービス業は「材料等仕入単価の上昇」と全ての業種で、調達コストの増加が前回同様、1位となった。円安のさらなる進行、コロナ禍からの需要の回復、国際的なサプライチェーンの混乱、燃料高の継続などを要因として、物価上昇が続いており、中小零細企業にとって、厳しい環境が続いている。

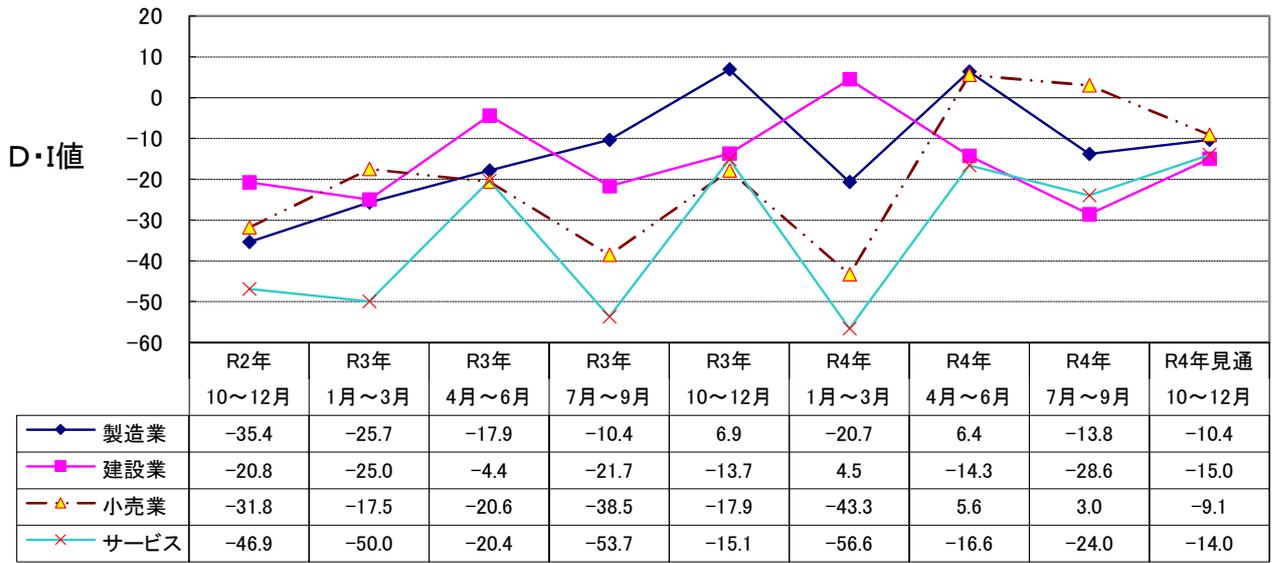


(業況天気図)

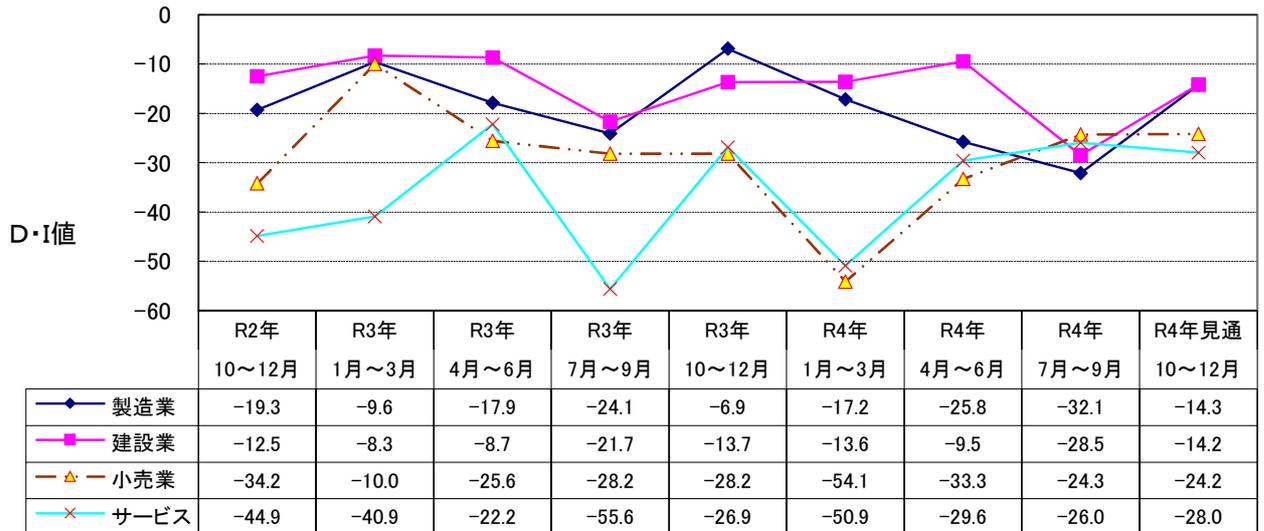
業種別	製造業	建設業	小売業	サービス業
7月から9月 実績				
D-I値	▲ 10.4	▲ 14.3	▲ 18.8	▲ 26.5
10月から12月 見通し				
D-I値	0.0	0.0	▲ 24.2	▲ 18.3
傾向	→	→	↘	→

(注) 好転 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

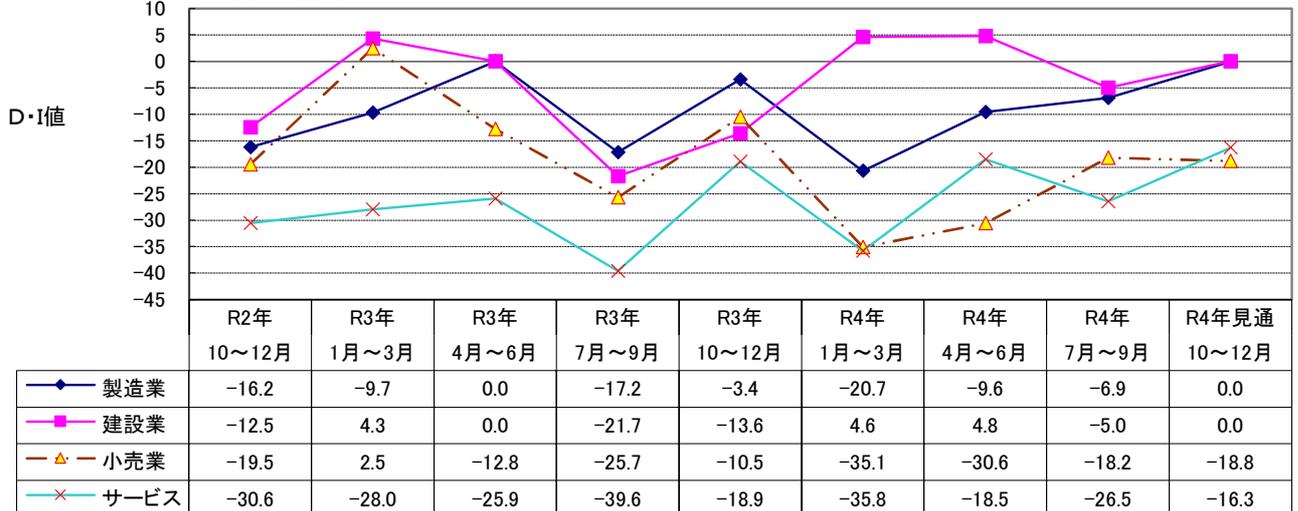
売上額(加工・完成)の推移



採算の推移(経常利益)



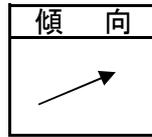
資金繰り



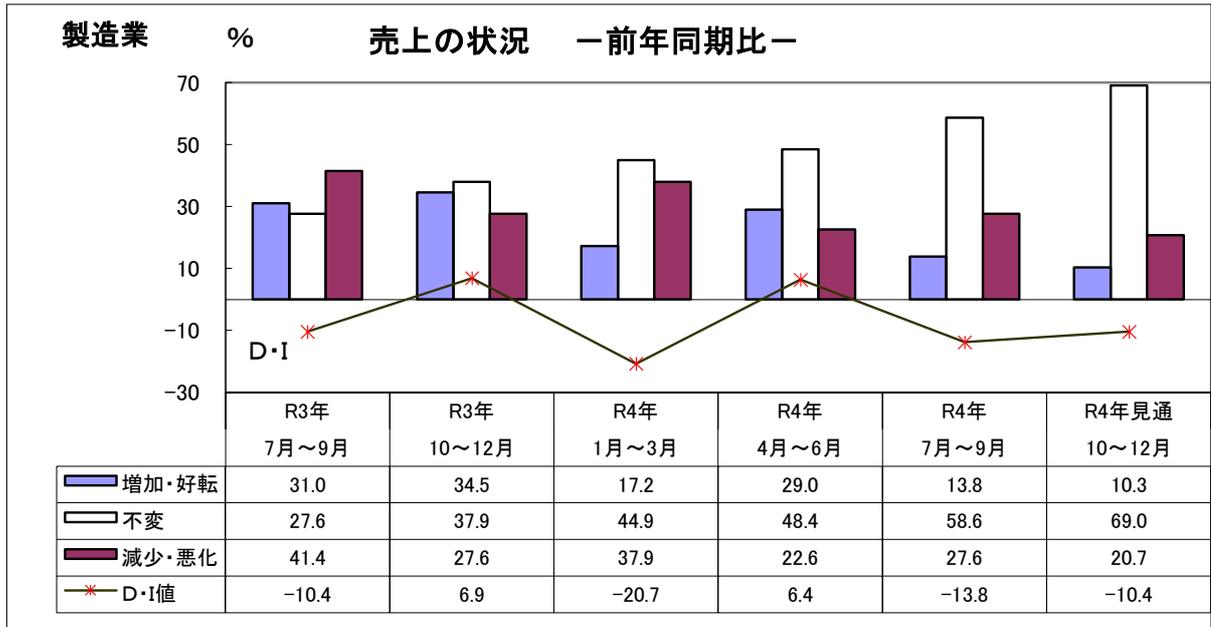
II 製造業の景況

(1) 売上(加工)額の推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
	
曇	曇
▲ 13.8	▲ 10.4

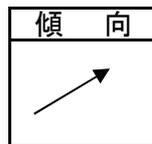


当期の売上高のD・Iは、「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加したため、D・Iは-13.8ポイントと、前期と比べて悪化した。次の四半期は「増加・好転」の企業は減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期から改善する見込みとなっている。

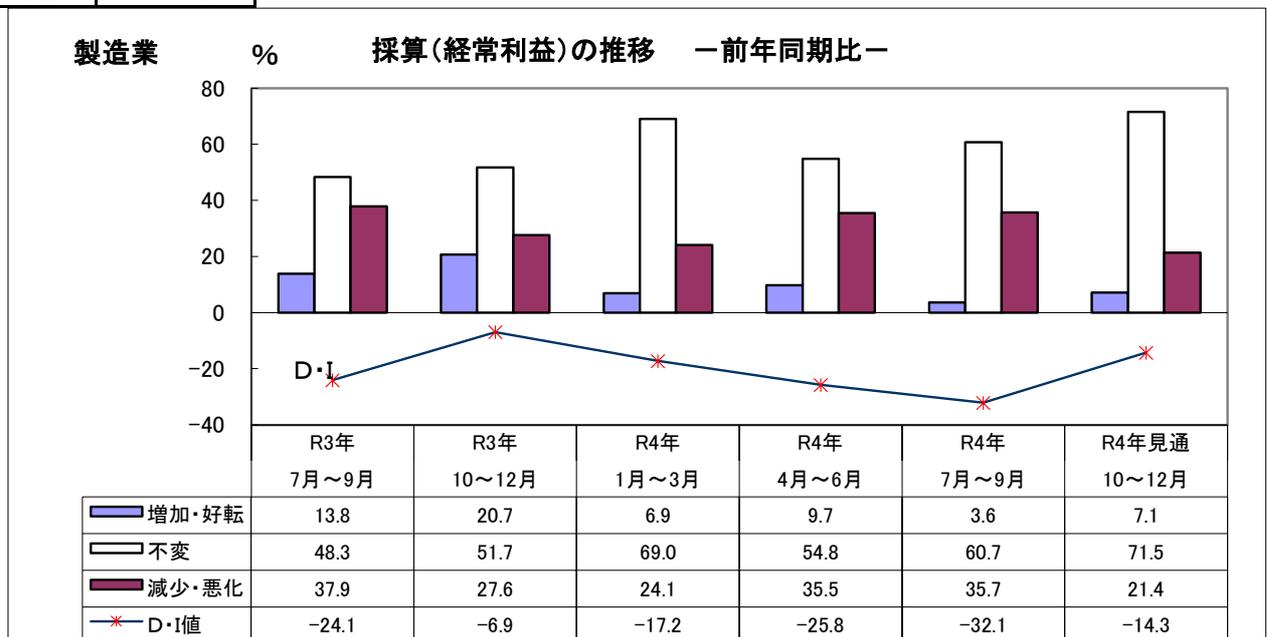


(2) 採算(経常利益)の推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
	
雨	曇
▲ 32.1	▲ 14.3

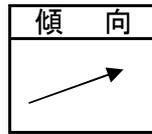


当期の採算のD・Iは、-32.1ポイントで、直前四半期の数値から悪化した。「減少・悪化」の企業は前期とほぼ横ばいであったが、「増加・好転」の企業が減少したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、当期から改善する見込みとなっている。

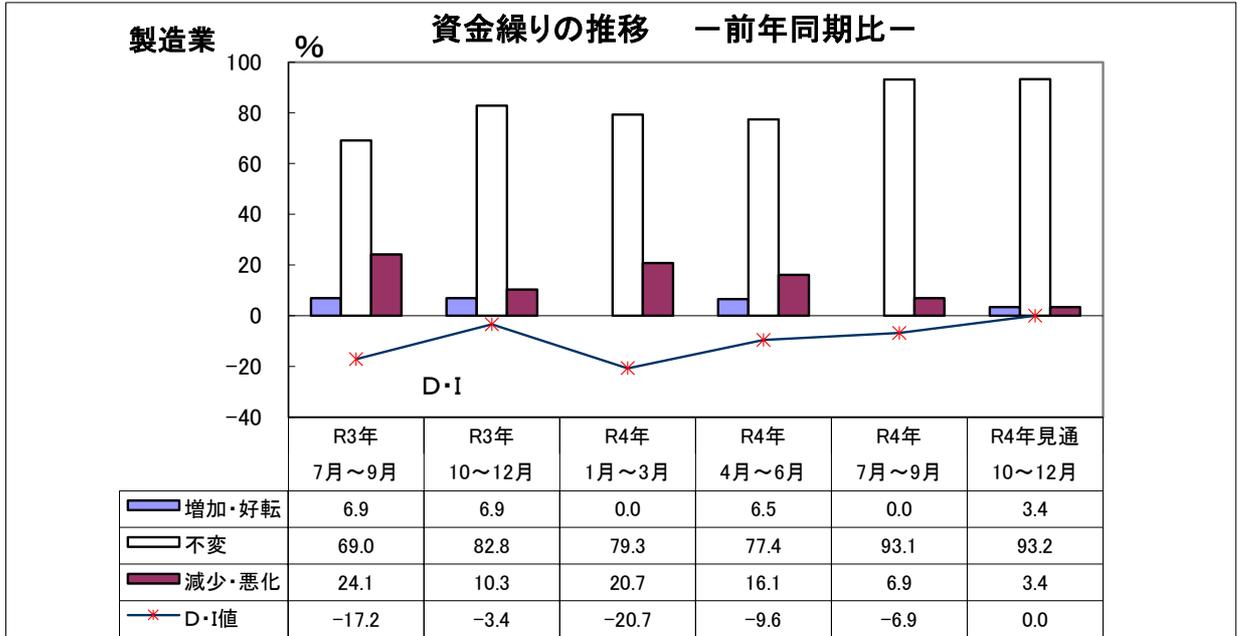


(3) 資金繰りの推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
曇	うす曇
▲ 6.9	0.0



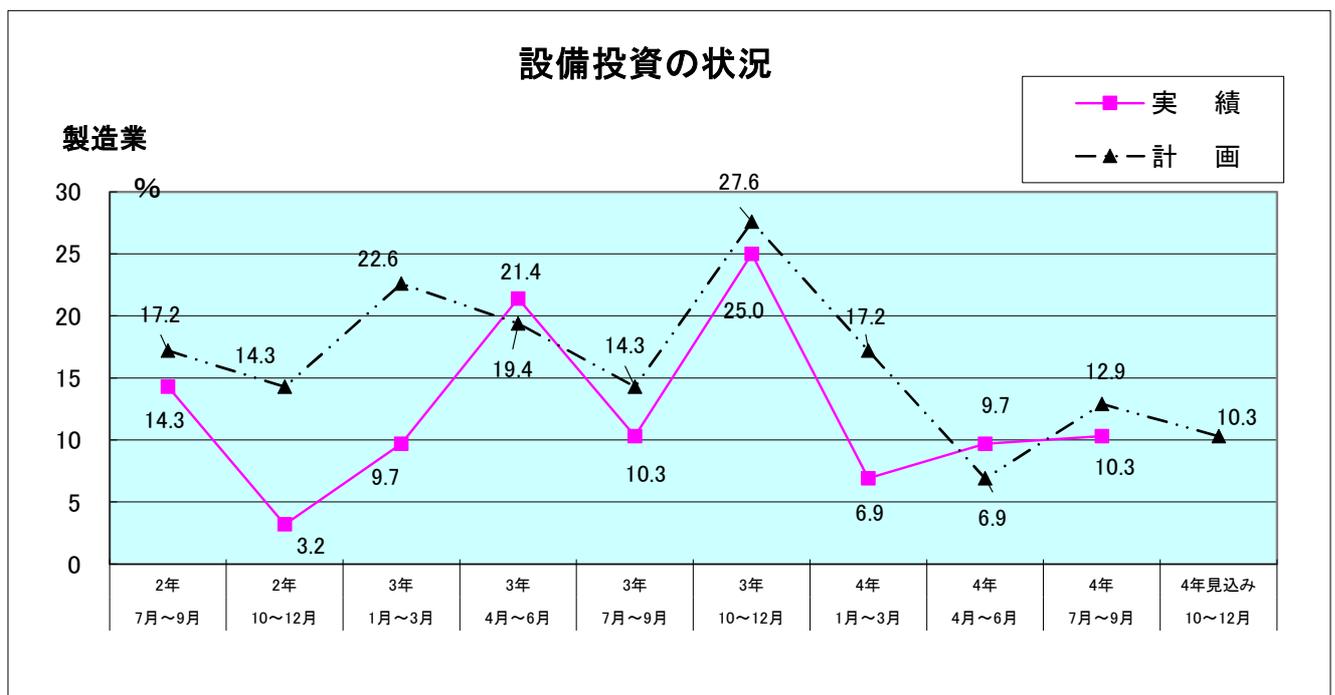
当期の資金繰りのD・Iは、-6.9ポイントとなり、前期より改善した。「増加・好転」の企業が減少したが、「減少・悪化」の企業も減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善を見込んでいる。



(4) 設備投資の推移

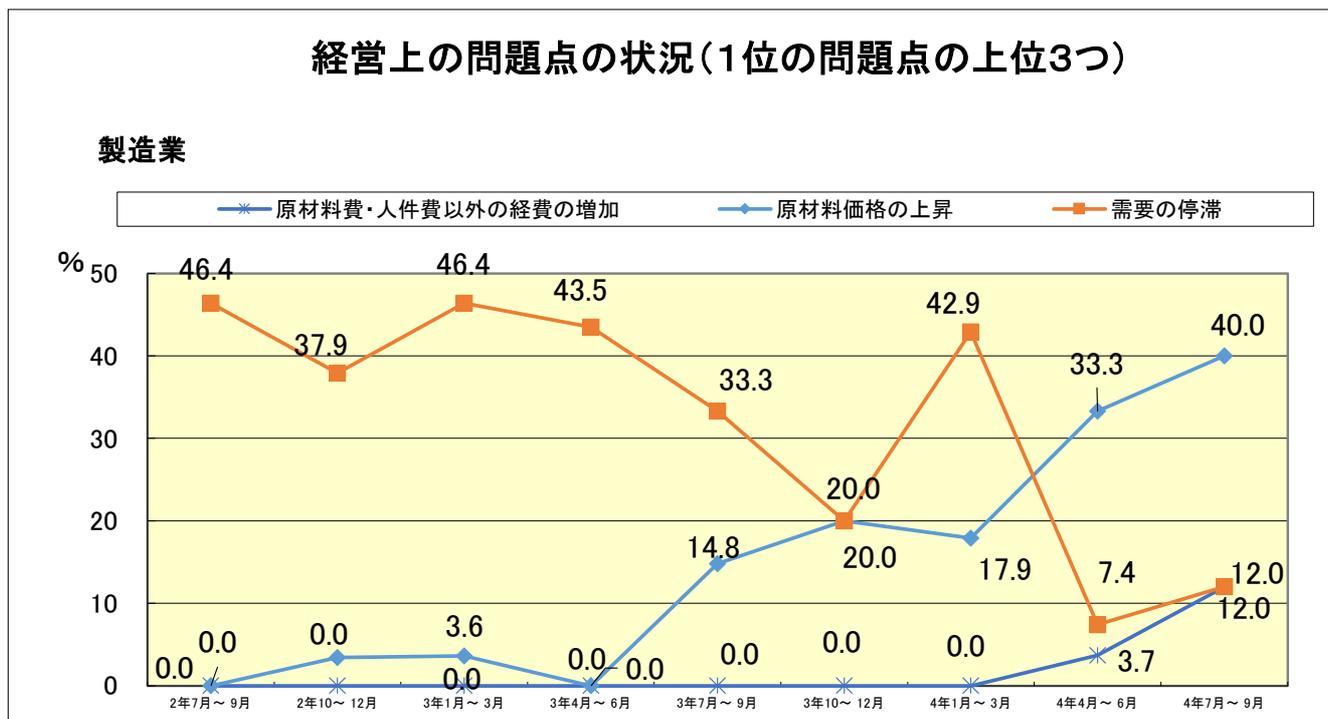
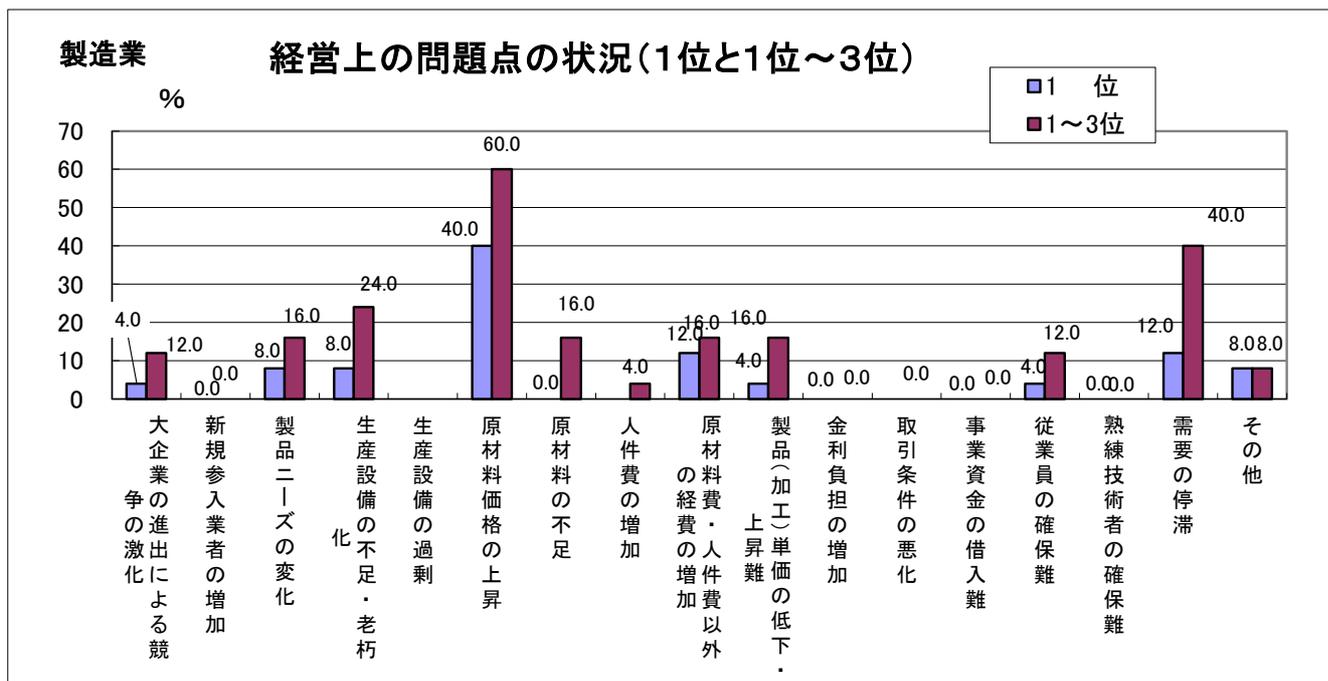
当期の設備投資計画は12.9%の企業が実施の意向を見せていたが、実績は10.3%となり、実績は計画を下回った。

次の四半期は10.3%の企業が計画している。内容は生産設備、その他となっている。



(5) 経営上の問題点

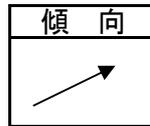
経営上の問題点について回答を求めたところ、(1位グループ)の合計で多かったのは、1位が「原材料価格の上昇」となり、2位が同率で、「原材料費・人件費以外の経費の増加」、「需要の停滞」となっている。(1位～3位グループ)では、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「生産設備の不足・老朽化」となった。今回の調査でも1位グループ、1位～3位グループともに「原材料価格の上昇」が1位となった。



Ⅲ 建設業の景況

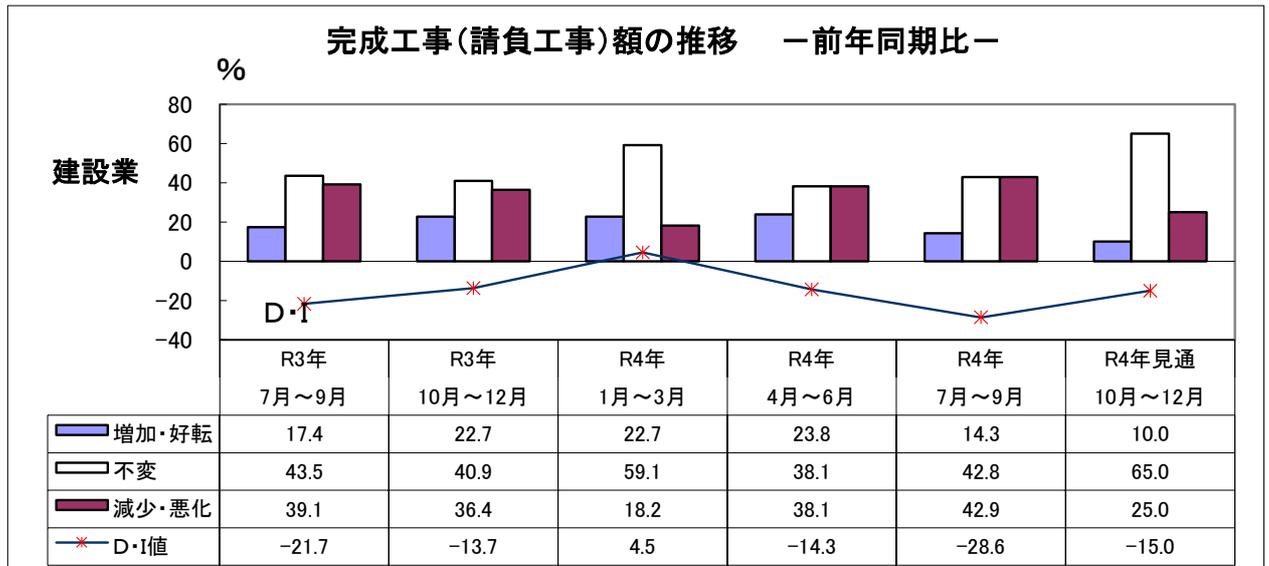
(1) 完成工事額の推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨	曇
▲ 28.6	▲ 15.0



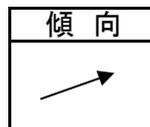
当期の完成工事額のD・Iは、-28.6ポイントとなり、前期から悪化した。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。

次の四半期については、「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、完成工事額のD・Iは、当期から改善する見込みとなっている。



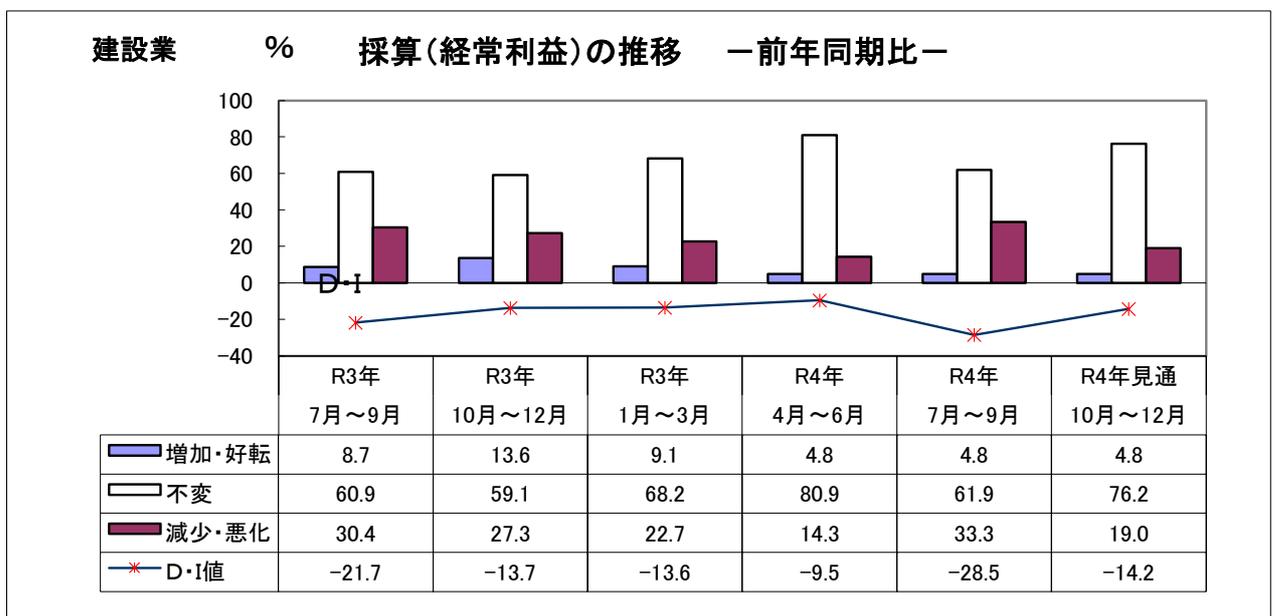
(2) 採算(経常利益)の推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨	曇
▲ 28.5	▲ 14.2



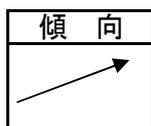
当期の採算のD・Iは、-28.5ポイントであった。前期から悪化した。「増加・好転」とする企業は前期と同じであったが、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。

次の四半期は、「増加・好転」とする企業は当期と同じであるが、「減少・悪化」とする企業が減少するため、D・Iは、当期より改善する見込みとなっている。

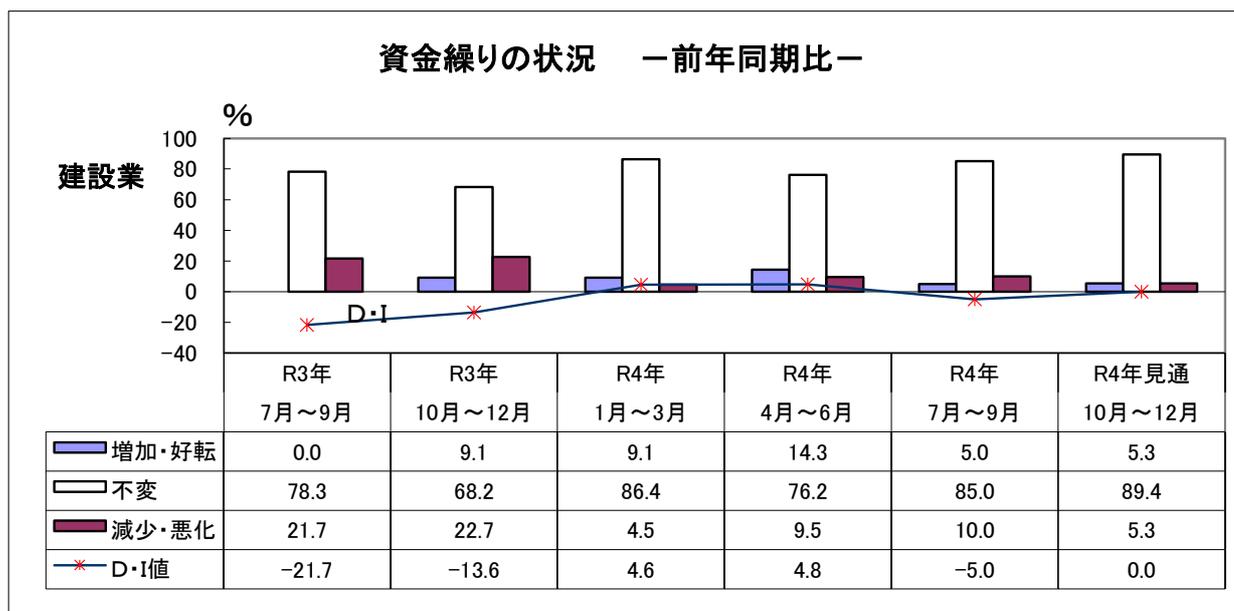


(3) 資金繰りの推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
曇	うす曇
▲ 5.0	0.0

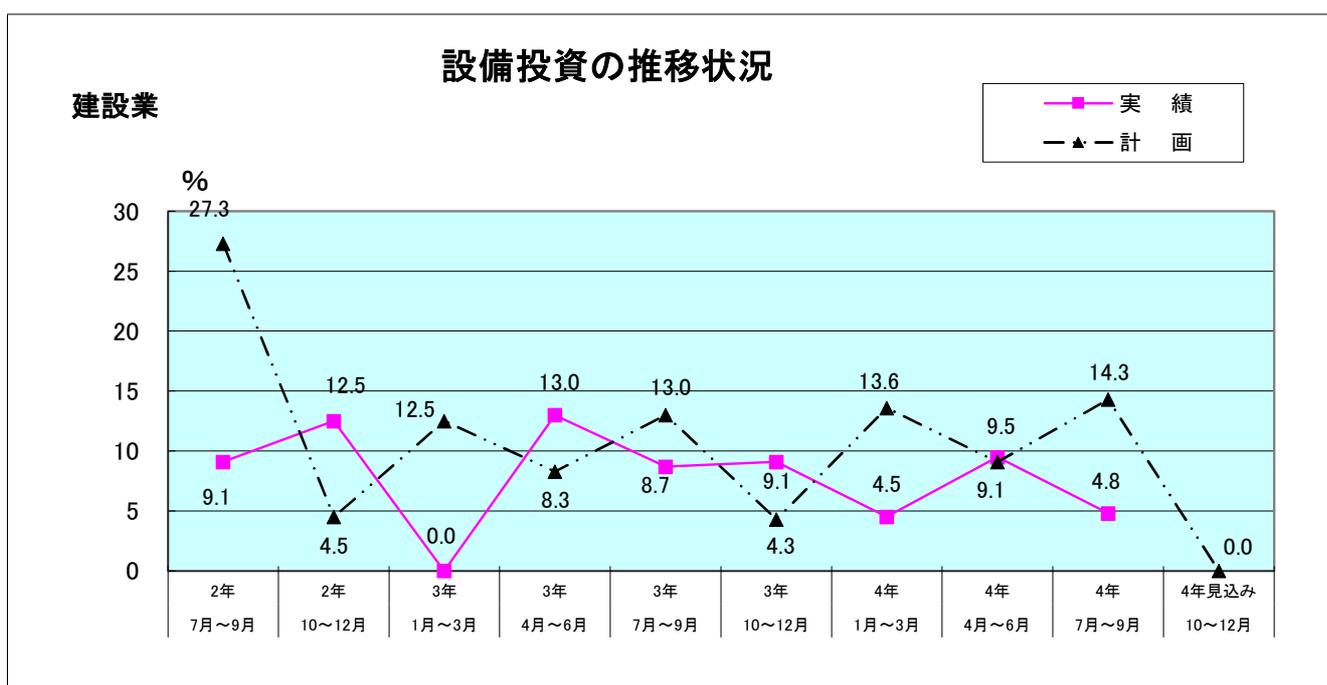


資金繰りのD・Iは-5.0ポイントと、前期より悪化した。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期については、「増加・好転」とする企業はほぼ横ばいであるが、「減少・悪化」とする企業が減少するため、D・Iは、当期より改善し0.0ポイントである。



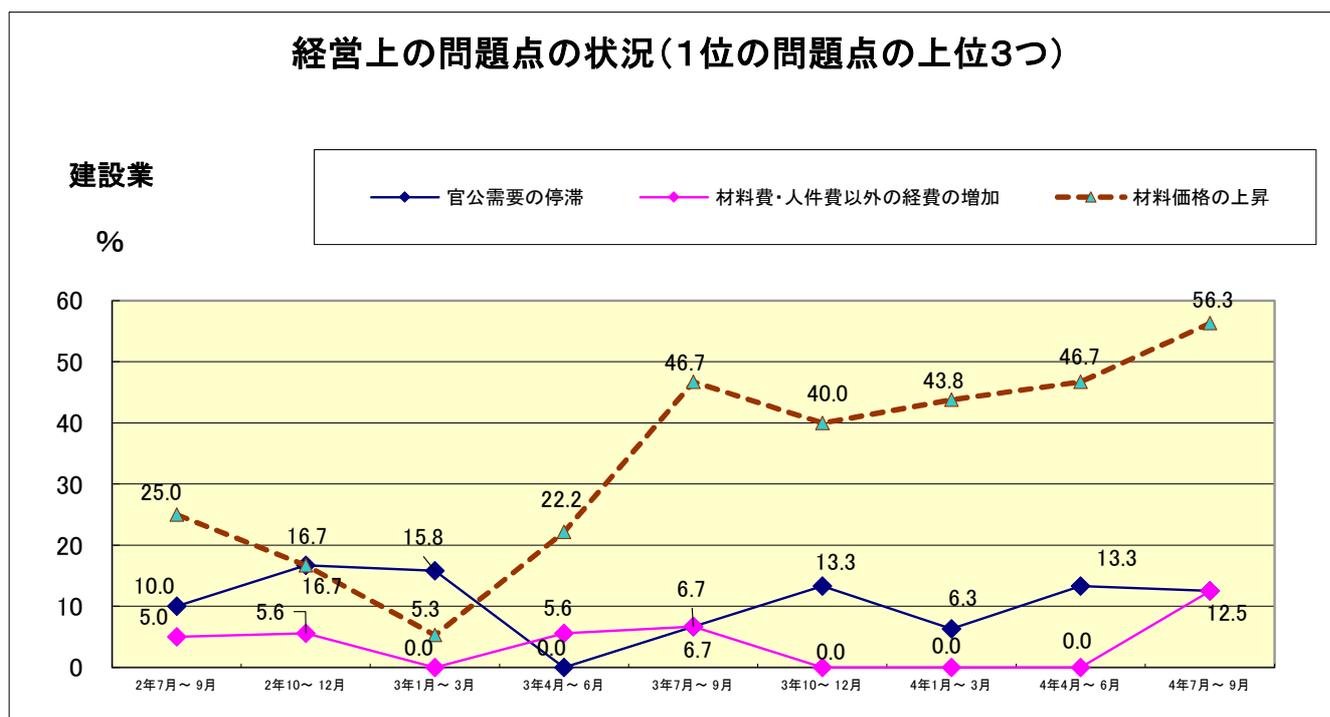
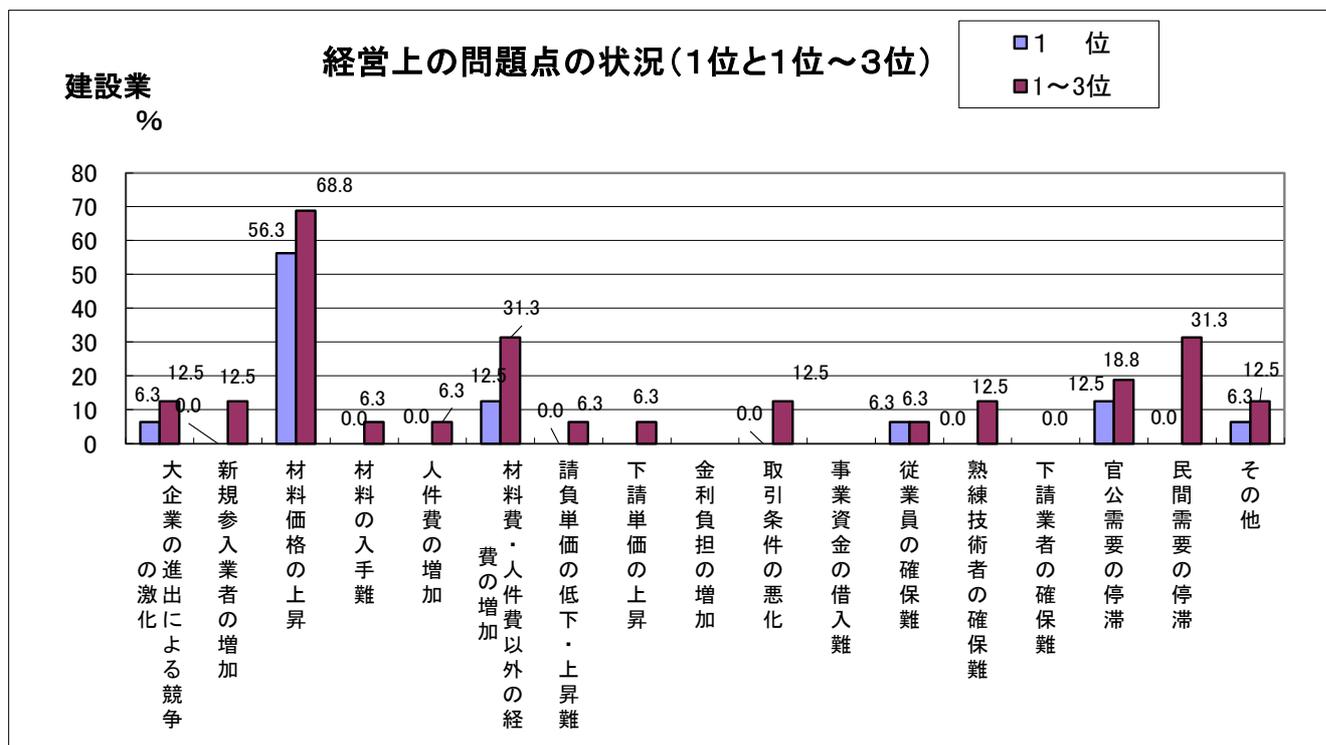
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は14.3%であったが、実際に投資を行った企業は4.8%であった。次の四半期に設備投資を計画している企業は0.0%という結果となっている。



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点について、(1位グループ)で回答が多かったのは、1位が「材料価格の上昇」、2位が同率で「材料費・人件費以外の経費の増加」、「官公需要の停滞」となっている。(1位～3位グループ)は、1位が「材料価格の上昇」、2位が「材料費・人件費以外の経費の増加」、3位が「民間需要の停滞」であった。前回の調査結果同様、「材料価格の上昇」が1位となっている。



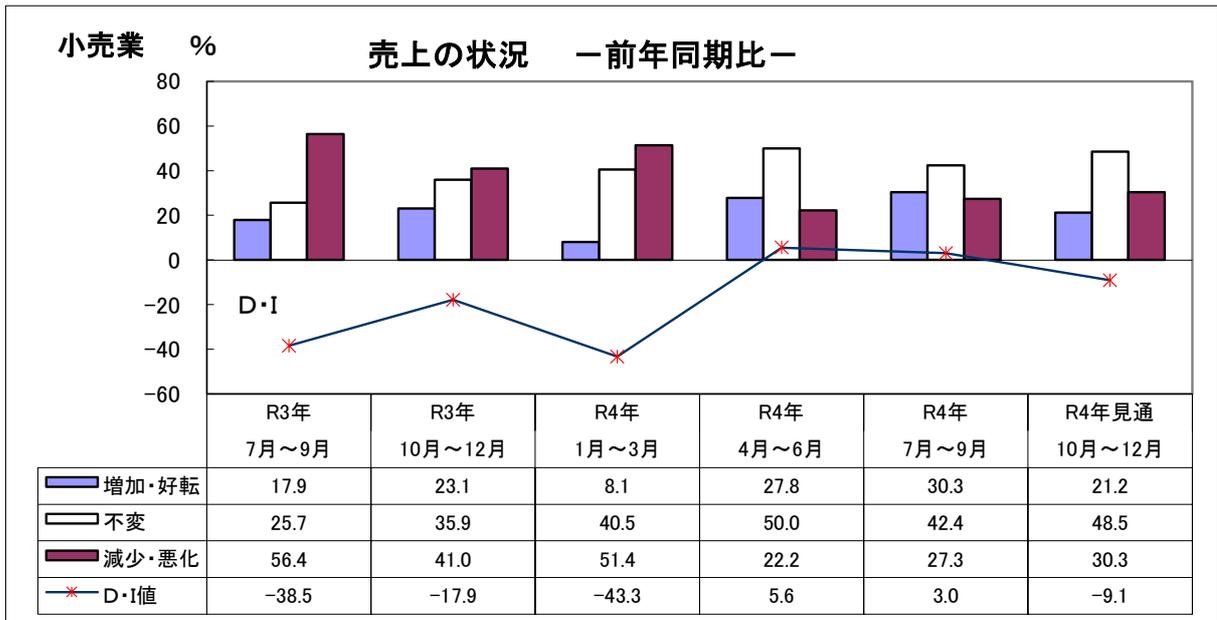
IV 小売業の景況

(1) 売上額の推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
うす曇	曇
3.0	▲ 9.1

傾 向

当期の売上のD・Iは3.0ポイントで、直前期の5.6ポイントより悪化した。「増加・好転」とする企業が増加したが、「減少・悪化」とする企業も増加したためである。客単価が悪化している。次の四半期は、「増加・好転」の企業が減少し、「減少・悪化」の企業が増加するため、D・Iは当期より悪化を見込んでいる。

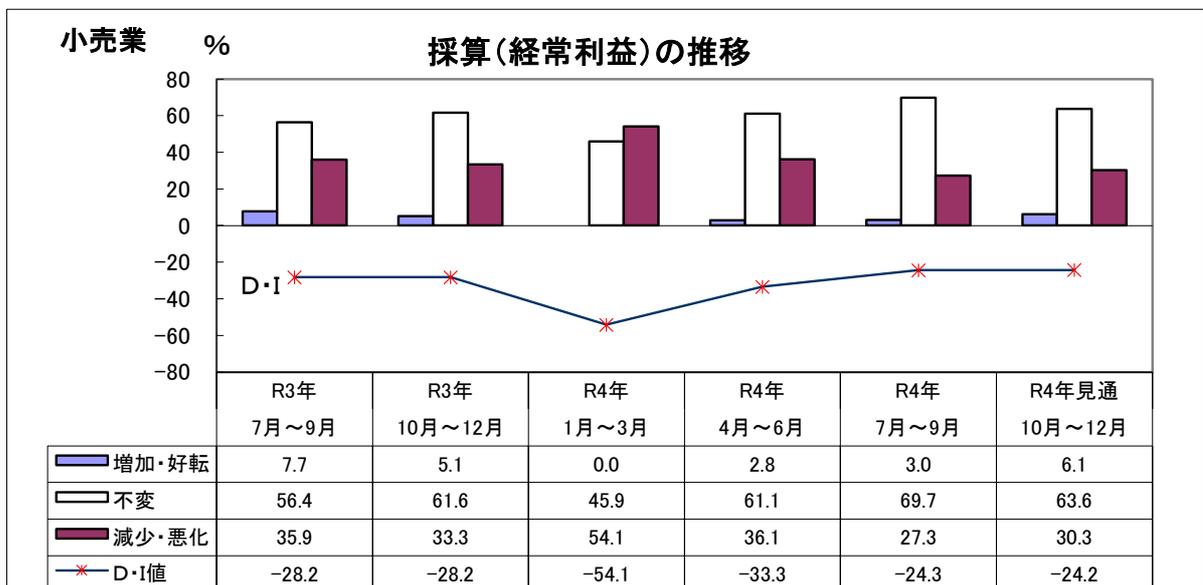


(2) 採算(経常利益)の推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
曇時々雨	曇時々雨
▲ 24.3	▲ 24.2

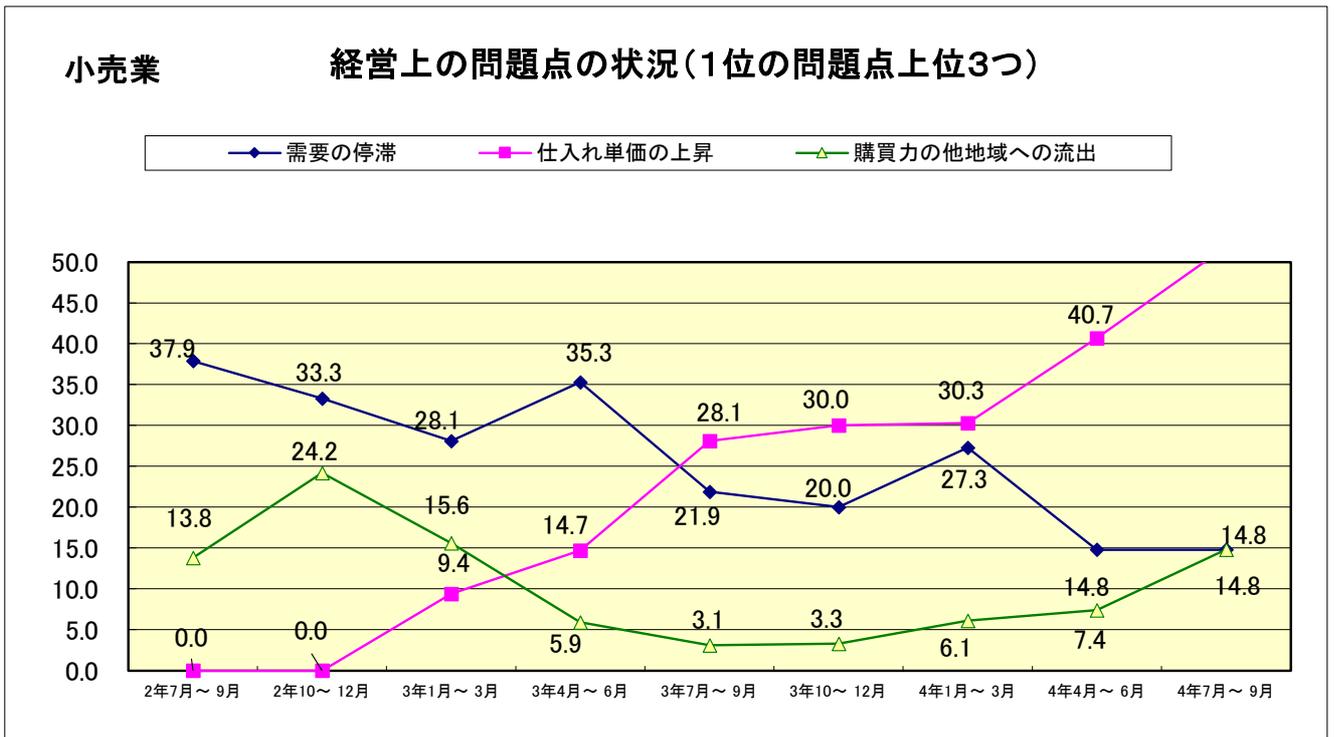
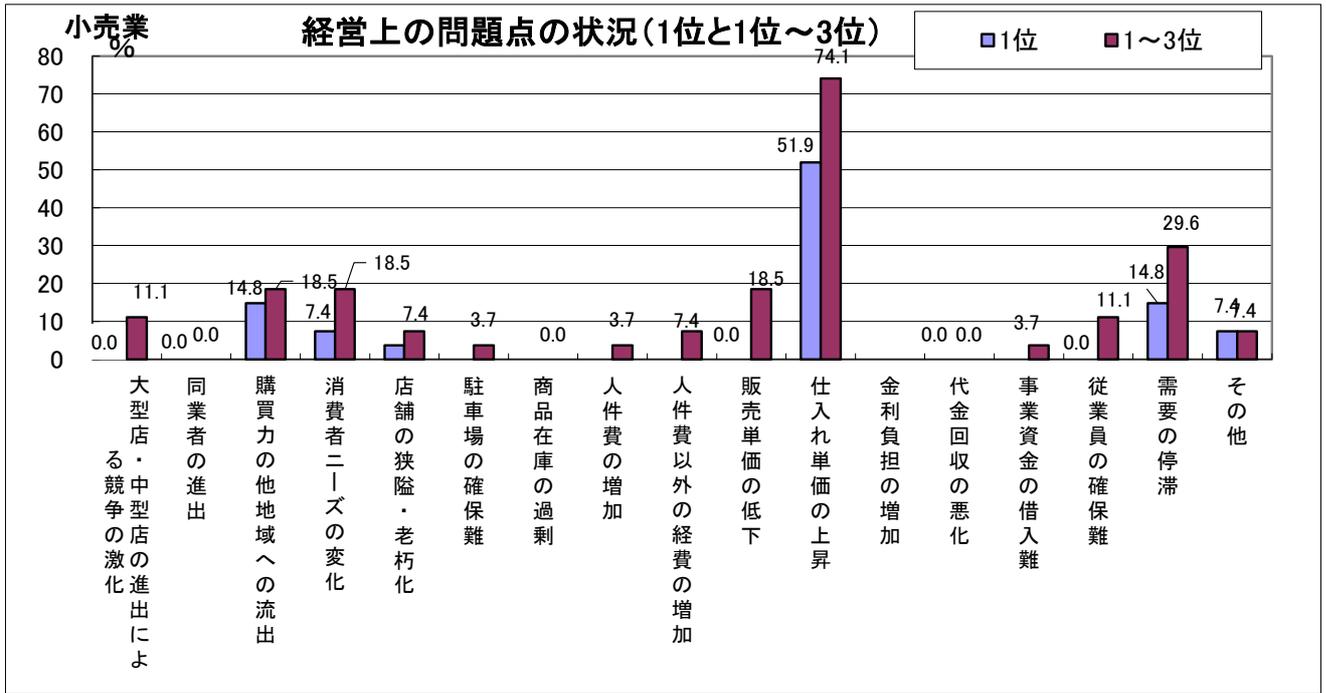
傾 向

当期の採算のD・Iは-24.3ポイントで、前期から改善した。「増加・好転」とする企業はほぼ横ばいであったが、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加するが、「減少・悪化」とする企業も増加するため、D・Iは当期とほぼ横ばいの-24.2である。



(5) 経営上の問題点

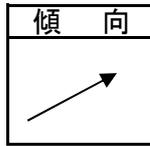
経営上の問題点について、回答が多かったのは、(1位グループ)では、1位が「仕入れ単価の上昇」、2位が同率で、「需要の停滞」、「購買力の他地域への流出」であった。(1位から3位グループ)では、1位が「仕入れ単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が同率で、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化」、「販売単価の低下」であった。前回から引き続き、「仕入れ単価の上昇」が1位となっている。



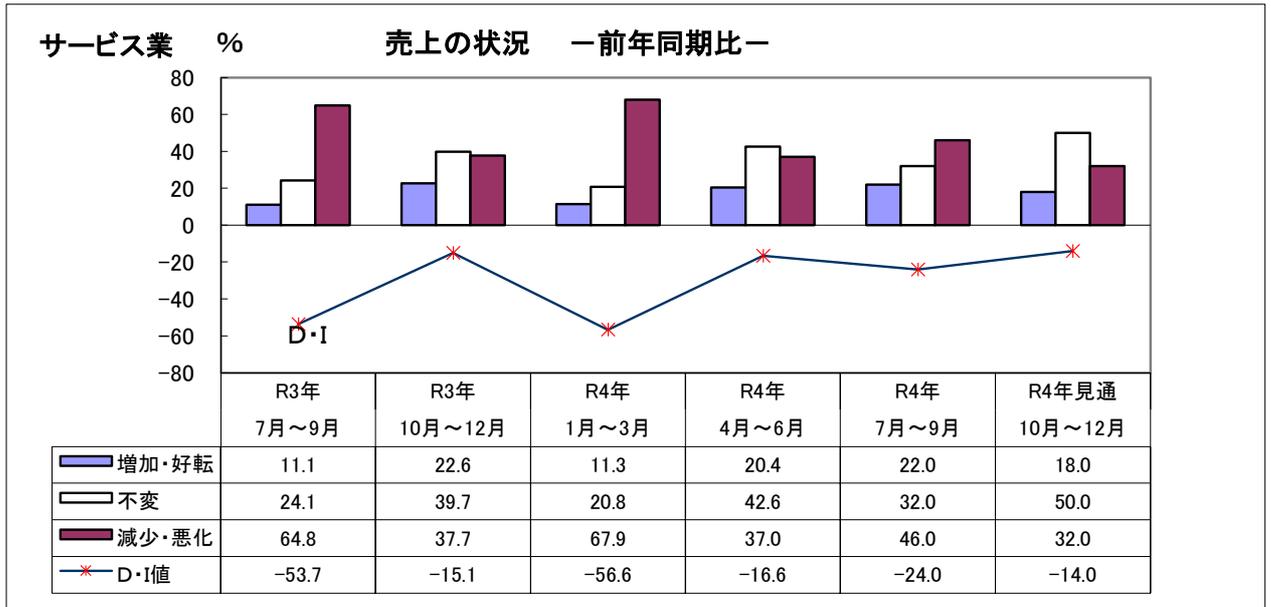
V サービス業の景況

(1) 売上額の推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨	曇
▲ 24.0	▲ 14.0

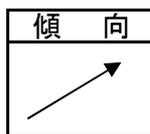


当期の売上のD・Iは、-24.0ポイントと前期より悪化した。「増加・好転」の企業が増加したが、「減少・悪化」の企業も増加したためである。利用客数が悪化している。次の四半期は「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期より改善する。

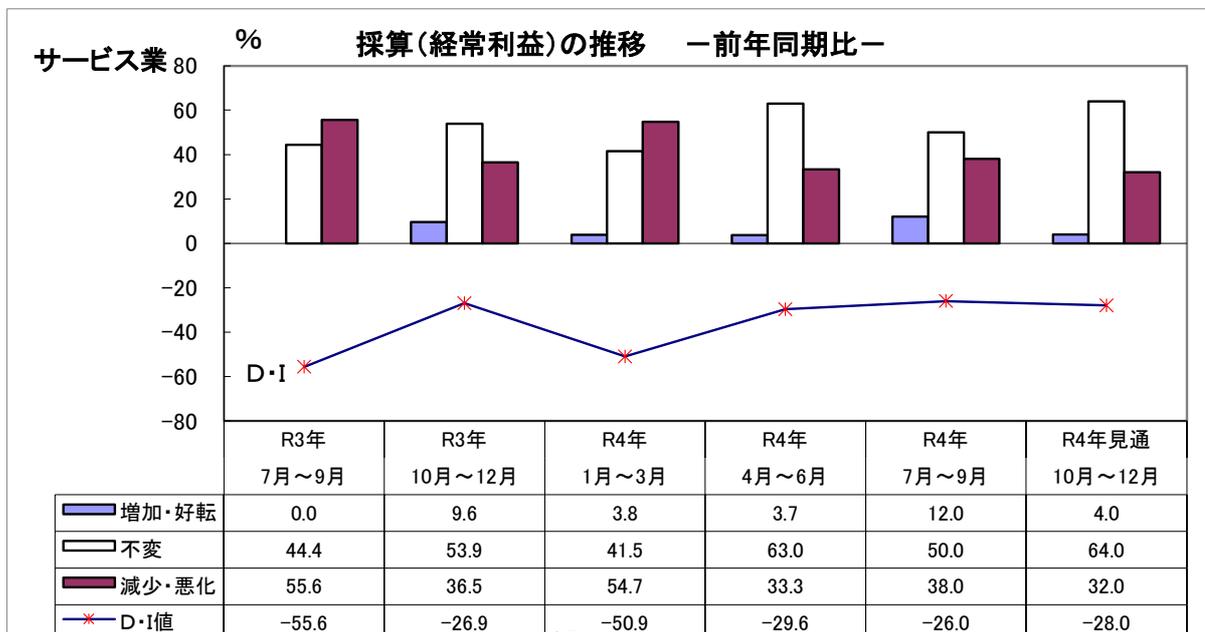


(2) 採算(経常利益)の推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨	曇時々雨
▲ 26.0	▲ 28.0

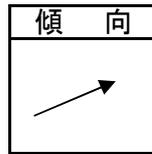


当期の採算のD・Iは、-26.0ポイントで、前期より改善した。「減少・悪化」の企業が増加したが、「増加・好転」の企業も増加したためである。次の四半期は「減少・悪化」の企業は減少するが、「増加・好転」の企業も減少するため、D・Iは当期より悪化する見込みとなっている。

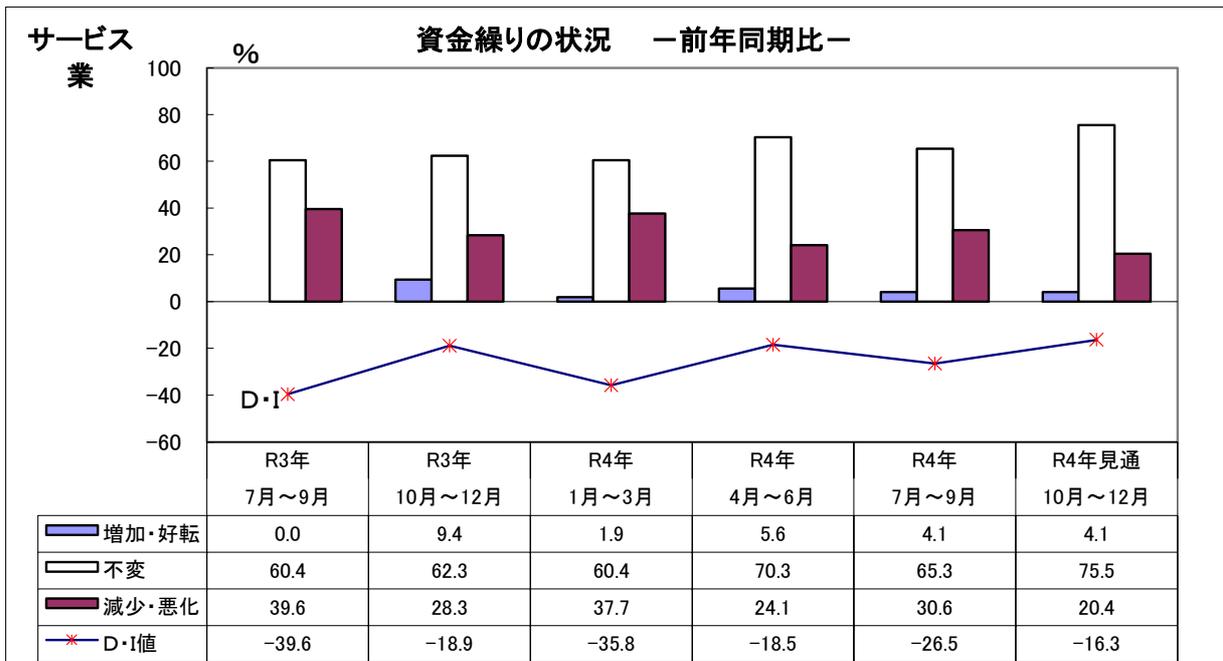


(3) 資金繰りの推移

4年7月～9月 (実績)	4年10月～12月 (見通し)
	
曇時々雨 ▲ 26.5	曇時々雨 ▲ 16.3

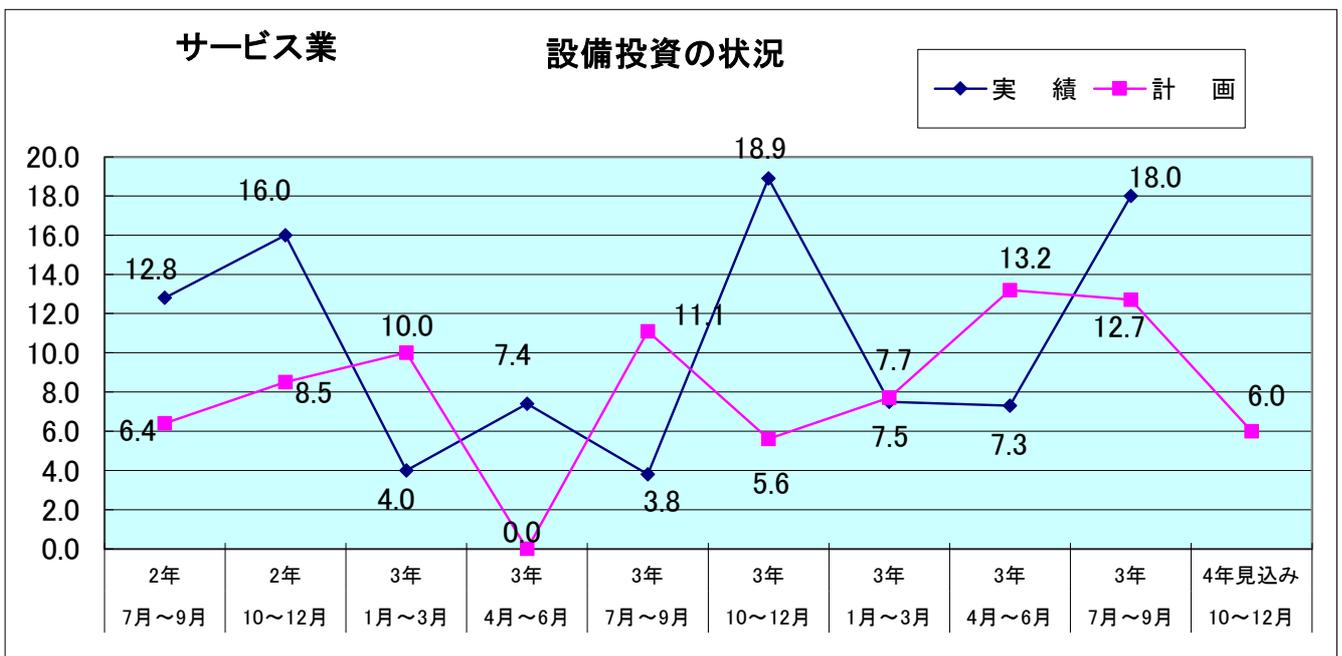


当期の資金繰りのD・Iは、-26.5ポイントと前期から悪化した。「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は当期と同じであるが、「減少・悪化」の企業が減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善する。



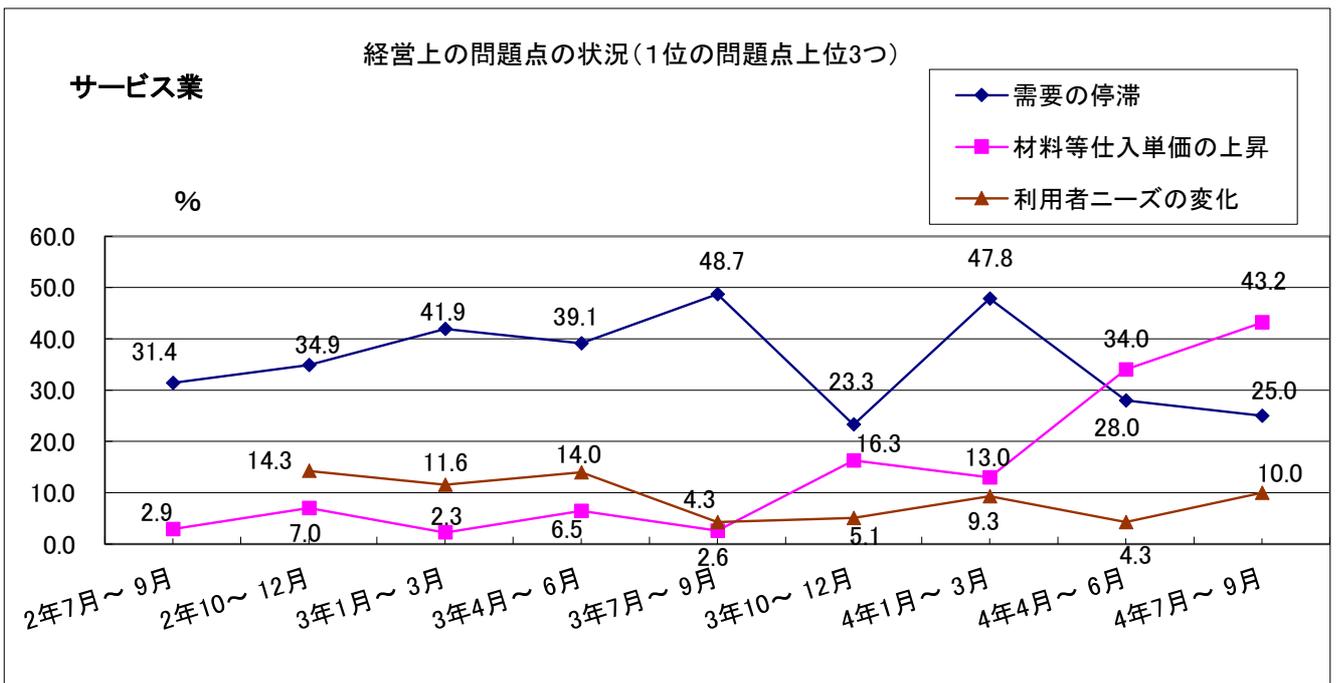
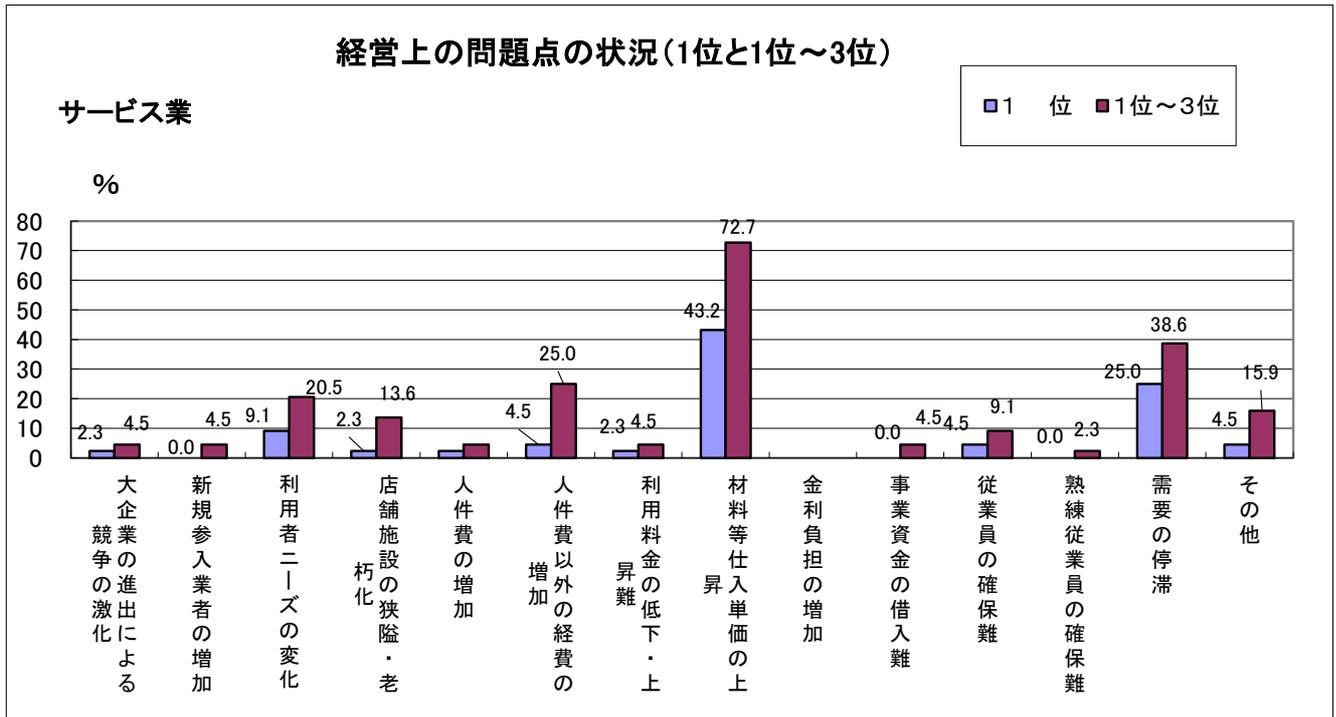
(4) 設備投資の推移

当期は、設備投資を計画していた企業は12.7%であったが、実施したのは計画を上回る18.0%の企業であった。内容は建物、その他等となっている。次の四半期に設備投資を計画している企業は、6.0%との結果となっている。



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点(1位グループ)で、回答が多かったものは1位が「材料等仕入単価の上昇」で、2位が「需要の停滞」、3位が「利用者ニーズの変化」となっている。(1位から3位グループ)では、1位が「材料等仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「人件費以外の経費の増加」となっている。今回の調査結果でも、前回同様、「材料等仕入単価の上昇」が1位となった。



産業別主要景況項目状況

宮崎県商工会連合会

業種			実績				見通し	
			令和3年	令和3年	令和4年	令和4年	令和4年	令和4年
			7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
製造業	売上(加工)額	増加・好転	31.0	34.5	17.2	29.0	13.8	10.3
		不変	27.6	37.9	44.9	48.4	58.6	69.0
		減少・悪化	41.4	27.6	37.9	22.6	27.6	20.7
		D・I値	▲ 10.4	▲ 6.9	▲ 20.7	▲ 6.4	▲ 13.8	▲ 10.4
	採算(経常利益)	増加・好転	13.8	20.7	6.9	9.7	3.6	7.1
		不変	48.3	51.7	69.0	54.8	60.7	71.5
		減少・悪化	37.9	27.6	24.1	35.5	35.7	21.4
		D・I値	▲ 24.1	▲ 6.9	▲ 17.2	▲ 25.8	▲ 32.1	▲ 14.3
	資金繰り	増加・好転	6.9	6.9	0.0	6.5	0.0	3.4
		不変	69.0	82.8	79.3	77.4	93.1	93.2
		減少・悪化	24.1	10.3	20.7	16.1	6.9	3.4
		D・I値	▲ 17.2	▲ 3.4	▲ 20.7	▲ 9.6	▲ 6.9	0.0
設備投資	計画	14.3	27.6	17.2	6.9	12.9	10.3	
	実行	10.3	25.0	6.9	9.7	10.3		
建設業	完成工事(請負工事)額	増加・好転	17.4	22.7	22.7	23.8	14.3	10.0
		不変	43.5	40.9	59.1	38.1	42.8	65.0
		減少・悪化	39.1	36.4	18.2	38.1	42.9	25.0
		D・I値	▲ 21.7	▲ 13.7	▲ 4.5	▲ 14.3	▲ 28.6	▲ 15.0
	採算(経常利益)	増加・好転	8.7	13.6	9.1	4.8	4.8	4.8
		不変	60.9	59.1	68.2	80.9	61.9	76.2
		減少・悪化	30.4	27.3	22.7	14.3	33.3	19.0
		D・I値	▲ 21.7	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 9.5	▲ 28.5	▲ 14.2
	資金繰り	増加・好転	0.0	9.1	9.1	14.3	5.0	5.3
		不変	78.3	68.2	86.4	76.2	85.0	89.4
		減少・悪化	21.7	22.7	4.5	9.5	10.0	5.3
		D・I値	▲ 21.7	▲ 13.6	▲ 4.6	▲ 4.8	▲ 5.0	0.0
設備投資	計画	13.0	4.3	13.6	9.1	14.3	0.0	
	実行	8.7	9.1	4.5	9.5	4.8		
小売業	売上額	増加・好転	17.9	23.1	8.1	27.8	30.3	21.2
		不変	25.7	35.9	40.5	50.0	42.4	48.5
		減少・悪化	56.4	41.0	51.4	22.2	27.3	30.3
		D・I値	▲ 38.5	▲ 17.9	▲ 43.3	▲ 5.6	▲ 3.0	▲ 9.1
	採算(経常利益)	増加・好転	7.7	5.1	0.0	2.8	3.0	6.1
		不変	56.4	61.6	45.9	61.1	69.7	63.6
		減少・悪化	35.9	33.3	54.1	36.1	27.3	30.3
		D・I値	▲ 28.2	▲ 28.2	▲ 54.1	▲ 33.3	▲ 24.3	▲ 24.2
	資金繰り	増加・好転	5.1	7.9	0.0	0.0	0.0	3.1
		不変	64.1	73.7	64.9	69.4	81.8	75.0
		減少・悪化	30.8	18.4	35.1	30.6	18.2	21.9
		D・I値	▲ 25.7	▲ 10.5	▲ 35.1	▲ 30.6	▲ 18.2	▲ 18.8
設備投資	計画	7.7	5.1	5.1	8.3	11.1	15.2	
	実行	2.6	10.3	11.1	11.1	15.2		
サービス業	売上額	増加・好転	11.1	22.6	11.3	20.4	22.0	18.0
		不変	24.1	39.7	20.8	42.6	32.0	50.0
		減少・悪化	64.8	37.7	67.9	37.0	46.0	32.0
		D・I値	▲ 53.7	▲ 15.1	▲ 56.6	▲ 16.6	▲ 24.0	▲ 14.0
	採算(経常利益)	増加・好転	0.0	9.6	3.8	3.7	12.0	4.0
		不変	44.4	53.9	41.5	63.0	50.0	64.0
		減少・悪化	55.6	36.5	54.7	33.3	38.0	32.0
		D・I値	▲ 55.6	▲ 26.9	▲ 50.9	▲ 29.6	▲ 26.0	▲ 28.0
	資金繰り	増加・好転	0.0	9.4	1.9	5.6	4.1	4.1
		不変	60.4	62.3	60.4	70.3	65.3	75.5
		減少・悪化	39.6	28.3	37.7	24.1	30.6	20.4
		D・I値	▲ 39.6	▲ 18.9	▲ 35.8	▲ 18.5	▲ 26.5	▲ 16.3
設備投資	計画	11.1	5.6	7.7	13.2	12.7	6.0	
	実行	3.8	18.9	7.5	7.3	18.0		
産業全体	売上高		▲ 31.1	▲ 10.0	▲ 29.0	▲ 4.7	▲ 15.9	▲ 12.1
	採算		▲ 32.4	▲ 18.9	▲ 34.0	▲ 24.6	▲ 27.7	▲ 20.2
	資金繰り		▲ 26.1	▲ 11.6	▲ 21.8	▲ 13.5	▲ 14.2	▲ 8.8
	業況		▲ 29.3	▲ 10.9	▲ 29.5	▲ 19.0	▲ 17.5	▲ 10.6

中小企業景況調査報告書

令和4年10月発行

宮崎県商工会連合会

〒880-0013

宮崎市松橋2丁目4番31号

宮崎県中小企業会館2階

TEL 0985-24-2055(代表)

FAX 0985-25-0036